



沖縄県地域づくりネットワーク No.017



**会長の交替**

今年度、平成十八年度から三年間当ネットワークの会長を務めた上原良幸氏が退任し、川上好久氏が新しい会長に就任しました。川上氏は、これまでにも上原会長の代理としてシマおこし研修交流会等に参加していただいております。私たちが活動の公務の都合で今回の総会へは出席していただ

け、本島から6名、離島から5名の参加がありました。本島6名のうち3名は沖地からの参加です。

## 平成二十一年度 沖縄県地域づくりネットワーク 総会の「1」報告

五月二十二日(金)の午後三時から、北中城村の「あやかりの杜」で、平成二十一年度の総会が開催されました。

無かったのが大変残念です。

会長挨拶(地域・離島統括監 久田裕氏による代読)のあと、平成二十一年度の事業報告と収支決算が報告され、特段の異議なく承認されました。

### 新しい取り組み

平成二十一年度の事業計画の中で、新しい取り組みとして、「エリアコーディネーター育成事業」が提案され承認

されました。エリアコーディネーターとは、自分の地域の地域の地域づくりの活動を支援・指導する地域おこしの仕掛け人として、地域に特化した地域づくりコーディネーターといった役割を果たす人たちのことです。昨年からは沖地

### 講演会

総会に引き続き、NPO法人島の風代表納戸義彦氏および峠の茶屋代表島袋恵美子氏を招いて地域の活動の事例報告をしていただきました。NPO法人島の風には、今年度のシマおこし研修交流会でお世話になる予定ですので、別記事で詳しくご紹介いたします。



**交流会**

総会・交流会と無事日程を終了した後は、交流会です。講演会でお話を伺った島袋恵美子さんの峠の茶屋にオードブルをお願いし、約二時間、楽しい時を過ごしました。今回の交流会は、総会・講演会の出席者の約七割が参加するという盛会となりました。

くさんの方々に交流会まで参加していただきたいという願いから、送迎ジャンボタクシーを手配しました。今回の交流会の成功にどのくらい貢献したかは不明ですが、来年度以降も検討する価値はあると思っています。もっと利用者が多ければマイクロボスとか、いろいろ考えられます。皆さんも是非利用を考えていただければと思います。

(事務局)

沖縄県地域づくりネットワーク

### 平成21年度 地域づくり活動支援事業の概要

**地域づくりコーディネーター派遣事業**

- ・地域づくりコーディネーターによる情報提供・助言
- ・エリアコーディネーター育成事業(新規)

**地域づくり活動支援事業**

- ・助成型支援 5団体(助成金1団体当最大4万円)
- ・連携型支援 1団体(人的支援及び助成金10万円)

**諸活動支援制度の活用支援**

地域づくり団体全国協議会の活動支援制度活用等

### 平成21年度 研修交流事業の概要

**シマおこし研修交流会の開催**

平成21年11月14日・15日、伊是名島にて開催予定

**県外研修交流事業**

地域づくり団体全国研修交流会への派遣参加

平成22年2月5日・6日 佐賀県佐賀市にて開催予定

## エリアコーディネーター育成講座始まる 沖地ネット会員から3名派遣!!

「AC育成講座とは」

「平成21年度エリアコーディネーター育成講座」が始まりました。これは、地域づくりを行う団体の活動をサポートする人材を育てるプログラムで、

1泊2日の宿泊研修2回で、全18時間の講義を受け、先進事例講話等により実践との結びつきを学びます。

沖地からも参加 この講座は昨年初めて実施され、昨年は本島内各地から9名が参加しました。今年度は、離島の窓口やサポート体制を作るため、離島を中心に参加を呼びかけ、本島から6名、離島から5名の参加がありました。本島6名のうち3名は沖地からの参加です。

### ACU期待しよう

沖地では現在、事務局にコーディネーターが1人しかいないため、全国的なサポートをするのが難しいという問題を抱えています。これを解決し、特に離島で窓口となりサ

### 沖地ネット会員の受講生

- 仲宗根亨さん (中部広域市町村圏事務組合)
- 南信乃介さん (NPO法人なはまちづくりネット)
- 松田健人さん (NPO法人飛雄ツーリズム)

ポートを行う人材を作るために、この育成講座を活用していきたいと思っております。今年度予算計上しているエリアコーディネーター育成費は、離島からの受講生の交通費の負担軽減の一部として活用しています。

第2回目は十月、沖地会員であるNPO法人飛雄ツーリズムが管理運営する釜武町の「ネイチャー未来館」で開催予定です。地域の拠点と事務局をつなげる人的ネットワークの構築を目指して、受講生の成長と今後の活動にご期待下さい。

(安次富日奈子)

### 平成21年度 重点支援事業募集

この事業は、「やりたい企画はあるのだけれど、次の一歩が踏み出せない」団体へコーディネーターを複数回派遣して、一緒に事業を推進するというものです。その活動資金として、10万円までの助成もありません。

対象は民間会員ならびに行政会員で、今年度は1団体の募集です。「沖地会員じゃないけれど、支援があれば、元気になる」という地域団体を抱えている行政会員は、その行政会員を沖地がサポートするという形で連携サポートが可能です。

申請は、所定用紙に必要事項を記入し、9月11日(金)までに事務局へ送付してください。(ファックス可)

詳しくは同封チラシをこらんにいただき、不明な点は、事務局へお気軽にお問い合わせ下さい。

### 助成金の申請はお早めに!

今年度は例年に比べ、助成金申請の問い合わせが多く、沖地ネットの助成金はすでに三件受理、残りは二団体分のみとなりました。このような状況なので、講師派遣などを希望する団体については、全国協議会の助成金への挑戦をご案内し、より多くの団体が、助成されるようにコーディネーターとしております。

すでに何件か電話での問い合わせもあります。「今年、後半に助成金を申請しようかなあ」と検討している会員のみならず、早めのお申し出をお勧めします。

### 全国協議会の助成金獲得実績 (平成21年8月5日現在)

- \* 山・森散策案内プログラム作成 助成金額 108,640円(決定)
- \* 人権教育講演会 助成金額 177,860円(決定)
- \* 地域活性化コーディネーター養成研修 助成金額 200,000円(予定)

助成金は講師謝金及び旅費に限定されますが、講演会の講師に限られるわけではありません。

### 編集後記

調査隊が運営する沖地ネット事務局は4年目に入りました。昨今、沖地ネットの前身である沖縄県地域づくり団体協議会が発足したころに、ある意味似通った状況が生じています。地域づくりや地域おこしの構造改革とでもいうような再編成の時代が始まったようです。ソーシャルビジネスとコミュニティビジネス、そして地域づくりの活動、これらの活動をどう有機的に結びつけて結果を出していくか、歴史と事例に学びながら、模索していきましょう。(HU)

発行  
沖縄県地域づくりネットワーク  
〒901-2301  
沖縄県北中城村字島袋1487番地  
TEL 098-894-5939 FAX 098-894-5940

# 住民による島の宝再発見事業 「しまあかり」に学ぶ 2009シマおこし研修交流会へ向けて



「しまあかり」とは、伊是名島の「のどかな風景」と「国指定重要文化財銘苅家住宅」を1000個の手作り行灯の光でライトアップし県内のミュージアムやライブラリーイベントを通じて、島の伝統的な景観を観光振興や地域活性化につなげようと、NPO法人島の風が2007年より開催しているイベントです。

今年のシマおこし研修交流会は、伊是名島で開催されるこのイベントに参加し、「地域にある資源を活かして自分達でも出来る、魅力的なオリジナルイベント」のヒントを学ぶことをテーマとし企画しています。

伊是名集落にある銘苅家住宅は、琉球王朝第二尚氏の尚円王の叔父の子孫で、当時の上級氏族の邸宅の造りがそのまま残されています。明治三十一年に一度補修工事が行われ、戦災を免れて保存状態も良く、一九七七年に国指定重要文化財に指定されました。



父の子孫で、当時の上級氏族の邸宅の造りがそのまま残されています。明治三十一年に一度補修工事が行われ、戦災を免れて保存状態も良く、一九七七年に国指定重要文化財に指定されました。

集落にとけこんでいるようでありながら、風格と重厚さで存在している。しかし、住民にとっては日々身近にある風景であり殆ど訪れることがない。また島の中にある住宅も、年々に老朽化がすすみ



建替えや解体などで島の風景が変化している。

その中で、このイベントは、美しき景観は守らなければいけないという再認識と、島のすばらしさを外へ情報発信しようという目的で開催されています。毎年、県内外から二五人、三、人の来場者がはるばるこのイベントのために島へやります。入場は無料でも、整理券が必要で、このイベントは、多ければいいというのではなく、適正な人数、島の景観や文化財に負荷をかけないというのが基本理念としてあるからです。

このイベントの注目すべきところは、事業の計画から行灯制作、

事業実施まで、延べ二九四名の住民が関わったというところです。

一年目の二七年、開催二ヶ月前、一九人の民間が集まり実行委員会を結成し、運営部会（会場、防災）、ライティング企画部会、コンサート部会、行灯制作部会、渉外PR部会です。

島の子どもたちと工夫をし、六、基の行灯を制作。開催一週間前には住民が銘苅家住宅周辺一斉掃除を行いました。その間、実行委員会は地元消防団や教育委員会防災担当との打ち合わせ、各部会での協議を数回繰り返して、自分達の手でひとつひとつ作り上げてきました。

イベントの魅力の反響は大きく、点灯や音響リハーサルの時、観客の収容がオーバーする可能性が出てきたため、そのときは安全性を優先し、一定数で入



場を断ることを決定し、村内放送や新聞折込で告知しました。多くのイベントが大規模化、商業化が優先される中、ここが「手作りのイベント」のポイントの一つとなると考えます。何のためにこのイベントをやるのか。

今年で三回目を迎える「しまあかり」。このイベントの技術や手法を学ぼうと県内外から視察が訪れます。先日、伝統的景観の保存活動の先駆的事例として注目される愛知県足助町で「しまあかり」が灯されることに決まりました。伊是名から

「行灯組み立てキット」が送られ、足助町の子どもたちが作り、まちおこしのイベントとなります。

今年度沖地では「しまあかり」へ参加しようということだけでなく、足助町のように、自分たちの地域や団体で「このようなイベントをやってみよう」という希望があれば、祭りを行うまでの体制や仕組み、「行灯キットレンタル」など、技術移転を受ける団体を募集しています。心惹かれた団体は事務局まで連絡下さい。



「しまあかり」の開催は11月14日（土）。シマおこし研修交流会は11月14日（土）と15日（日）を予定しています。具体的なスケジュール内容はこれからですが、今年はいくつかの内容に、スパイスを入れて工夫していきたいと思っております。お楽しみに。

## 第一回「沖地委員リレーエッセイ」 私の思う地域づくり

私は自分の仕事に没頭し、地域の事は役場がやってくれるもの、それが当たり前と思いついていました。そして少しでも意に沿わなければ文句を言っていました。そのような私が地域づくりを頭の中心に据えるようになったのは、四年前の南風原町総合計画づくりで、住民公募にその真意を疑いながら手をあげて参加したのが始まりでした。そこで多くの住民や若者、他市町村から参加した人達と話し合っていく中で、六十年の今迄を振り返ることが出来たのです。

『住民と行政は対等の立場であってどちらが上でもない。住民には住民でなければ出来ない事があり、行政も同じ事だ。だから住民と



行政は協働で地域づくりに取り組まなければいけない。』と言った総合計画の担当者の言葉は、あの時の私には目から鱗でした。彼の地域づくりに取り組む姿勢が私を変えたのかも知れませんが、今、多くの所で住民参加の話が聞かれますが、参加するだけではなく『住民がその事業に参加して自分の立ち居場所に気付けるか。』が大切な要素だと思っています。

「ファミリーサポート ひびき」のこと

総合計画づくりが終わった後、同じ考えを持つ仲間をつくる為、社協を軸に「南風原の福祉を語る会」を仲間と立ち上げました。その中から生まれてきたのが「ファミリーサポート ひびき」のお母さん達のグループです。これは行政主導でもなく、学習の中から自然発生的に生まれてきた

「地域づくりって何だろう。少なくとも私は五年前までは、そのような事は考えたこともなかった。」

南風原町まちづくり未来塾 藤原政勝

平成十九年の一月、南風原文化センターが沖縄陸軍病院壕の公開に先立って開催した力イダの養成講座を受講

ず、その人達をどの位気付けさせる事が出来るか（私のときの様に）それが地域づくりの出発点ではないでしょうか。

南風原 平和ガイドの会

平成十九年の一月、南風原文化センターが沖縄陸軍病院壕の公開に先立って開催した力イダの養成講座を受講

しながらも二年経過した時、ガイドさん達に相談しました。『自分達がやっているガイドは文化センター任せだけでそれで良いのだろうか？』と。

多くのガイドが考えてくれました。そして『自分達で出来る事は行政の力を借りて自分達の手で運営をして行こう、壕だけではなく南風原町全体を案内する総合ガイドや体験学習にも取り組もう。』と、そう考えて行動してくる仲間ができたのです。自分達の周りにあるものを軸に、行政と協働で取り組んで行く事の大切さを今味わっています。

グループで、子育て支援の事業化に取り組んでいます。『南風原の福祉を語る会』はお母さん達が組織をつくり易くする為、『沖地』の力も借りながらお手伝いをしました。

このお母さんたちの様な素晴らしい人達は我々の周囲には沢山居るはず。

ファミリーサポート ひびき 子育て支援サポーター養成講座

